
学内活動報告

順天堂大学保健看護学部 順天堂保健看護研究 7
P.94-99 (2019)

公開講座の新たな取り組み

New initiatives of Open lectures

岩清水 伴美* 島田 千恵子* 辻川 比呂斗* 渡邊 和信*
IWASHIMIZU Tomomi SHIMADA Chieko TSUJIKAWA Hiroto WATANABE Kazunobu
佐野 知世* 西野 友子* 大熊 泰之*
SANO Tomoyo NISHINO Tomoko OKUMA Yasuyuki

要 旨

順天堂大学では社会に開かれた大学として、教育や研究の成果を広く社会に還元・共有する取り組みを行なっている。順天堂大学の各学部教職員として取り組むべき重点課題に、「各学部・キャンパス公開講座の増加」があり、本学部においても昨年度から公開講座の増加に向けての検討が行われた。それに基づき平成30年度は社会連携推進、広報、学生部、国際交流の各委員会と静岡病院等と合同により9回の公開講座を企画した。11月までに7回の公開講座を開催し、そのうち新たな取り組みをした4講座を振り返り報告する。

索引用語：公開講座、社会貢献、広報効果、教育効果

Key words：Open lecture, Social contributions, Public relations effect, Educational effect

1. はじめに

順天堂大学では社会に開かれた大学として、教育や研究の成果を広く社会に還元・共有する取り組みを行なっている。地域社会における教育文化活動の推進や健康の増進を目的として、幅広い層を対象に、社会のニーズに適したテーマによる講義など様々な公開講座を平成22年の開学時より毎年開催している。開学当初は年1回の開催であったが、開学6年目の平成27年度から年2回の開催となり、平成29年度からは順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座との合同開催に取り組んできた¹⁾。

順天堂大学の各学部教職員として取り組むべき重点

課題に、「各学部・キャンパス公開講座を増加」があり、本学部においても公開講座の開催回数増加に向けての取り組みが必要となった。そこで今年度新たな取り組みとして、社会連携推進、広報、学生部、国際交流の各委員会と合同で公開講座を開催したので報告する。なお、第15回公開講座は静岡病院との合同で従来通りの実施のため除外した。

II. 実施内容及び結果

1. 企画・運営について

1) 各委員会との連携について

企画にあたり、社会連携推進、広報、学生部、国際交流の各委員長に共催の依頼をし、各委員会の役割などの確認を行った。公開講座企画委員会では、各委員会への報告・連絡のための窓口担当者を設けた。社会

* 順天堂大学保健看護学部

* *Juntendo University Faculty of Health Science and Nursing*

(Nov. 9, 2018 原稿受付) (Jan. 18, 2019 原稿受領)

連携推進、広報、学生部委員会の窓口担当者は各委員会に所属する公開講座企画委員とし、国際交流委員会の窓口担当者は委員長とした。各委員会との具体的な内容の検討については、窓口担当者を通して行った。

2) 広報活動について

順天堂大学医学部附属静岡病院（以下、静岡病院）との共催である2回の公開講座のポスター・チラシは、静岡病院が主体となり作成した。その他の公開講座のポスター・チラシについては、公開講座企画委員の中から2名をポスター・チラシ作成担当とし作成した。チラシについては公開講座ごとと、平成30年度講座の前半一覧・後半一覧にした物を作成した。広報委員会の協力を得て、高校生あてに送付する「学部パンフレット」セットに公開講座のチラシを同封し発送した。

3) その他

公開講座の回数増加により公開講座企画委員の負担が増大するため、公開講座当日の委員全員参加は従来行っていた静岡病院との合同開催2回と第12回の3回とし、新たな取り組みの公開講座のスタッフ体制は3人程度とした。また、各回の公開講座内容の決定やチラシ作成は定例委員会での検討だけでは間に合わず、数十分単位で随時集合し検討した。

2. 新たに取り組んだ講座内容及び結果について

(表1.表2参照)

1) 第12回公開講座「地域住民と共に看護職を育てる看護教育－模擬患者に挑戦してみよう－」

社会連携推進室と共同開催し、模擬患者の養成と拡大を目的に実施した。本公開講座は模擬患者として参加経験のある者や模擬患者に興味を持つ者を対象に限られた対象にした。そのため、健康や保健活動に興味のある対象への周知が効果的ではないかと考え、市町保健活動に協力している団体（食生活推進委員会、保

健推進委員、8020推進員）等に行った。講義は本学部基礎看護学領域の石塚淳子先任准教授から「保健看護学部における模擬患者の活用と実際」、一般財団法人ライフ・プランニング・センターの福井みどり氏より「模擬患者になるための心構え」であった。

その結果、三島市在住者の60代以上の参加が82.1%であり70代の割合が多く、無職が51.3%であった。参加者は、「模擬患者について難しく考えていましたが、興味が強くなりました」「とても勉強になりました。大学の姿勢やマインドも大変わかりやすかった」「楽しく参加させていただいております。サポーターとして頑張ります」などの感想があった。参加者には模擬患者に興味を持ち、今年度のOSCE（客観的臨床能力試験）での模擬患者に初参加してくれた者もいた。

2) 第13回公開講座「健康をつくる看護とスポーツ」

広報委員会と共催し、看護学校等進路説明・相談会の会場にて開催した。本学部の在學生は静岡県東部地域の出身者が多く、静岡県中部地域への周知が必要と考え静岡市で行われる看護学校等進路説明・相談会を会場に選定した。高校生およびその保護者の参加を見込み、看護学部を進路として考えていない対象にも看護について認識してもらう機会を設けるため、スポーツ健康科学部の広報委員会へ働きかけ講演内容を2本立てとした。講演は、静岡病院のフライトナース鈴木めぐみ氏による「フライトナースの現場から看護を考える」、スポーツ健康科学部川田裕次郎助教による「最高のパフォーマンス発揮を考えるスポーツ心理学」であった。周知方法は、ホームページへの掲載、高校への学部パンフレット発送時に公開講座のチラシも同封し、広報委員会の高校訪問時にもチラシを配布した。

参加者は高校生と保護者と思われる年代が多かった。県内の参加者のうち静岡市が36.9%、焼津市が10.5%であり中部地域が全体の半数以上であった。公

表 1 公開講座の概要

	第 12 回公開講座	第 1 回公開講座	第 1 回公開講座	第 1 回公開講座
	2 1 1 1 1	1 1 1 1	2 1 1 1 1	1 2 1 1 1 1 1 2
	地域住民と共に看護職を育てる看護教育・模擬患者に挑戦してみよう の の	健康をつくる看護とスポーツ の の	現役パラアスリートが語る パラスポーツの魅力	の がんとともに生きる生き方
講			2 表	講座
			の	
	開 の	の 開 開	開	開
	の			

表 2 参加者アンケートの結果

	第 12 回公開講座	第 13 回公開講座	第 14 回公開講座	第 17 回公開講座
参加者数	53	50	56	105
年代	60 代以上 82.1% 70 代が多く 次いで 60 代であった	10 代 50.0% 40.50 代 47.4%	10 代・20 代 56.4% 50 代以下 94.5%	10・20 代 20.8% 50 代 31.9% 40・60・70 代 各 10%代
住所	三島市 71.8% その他 28.2%	静岡市 36.9% 富士市 18.4% 焼津市 10.5% その他 34.2%	三島市 33.3% 静岡市 12.8% 富士市 10.3% 沼津市 7.7% その他 35.9%	三島市 41.7% 富士市 8.3% 沼津市 5.6% 富士宮市 5.6% その他 38.8%
職業	無職 51.3% 会社員 10.3% 保健医療職 5.1% 自営業 5.1% その他 28.2%	生徒・学生 50.0% 会社員 28.9% 専門職 15.8% その他 5.3%	高校生・大学生 56.4% 会社員 20.5% 福祉職 5.1% 無職 5.1% その他 12.8%	中・高・大学生 15.3% 会社員 13.9% 無職 30.6% 保健医療職 9.7% 福祉職 4.2%
知ったきっかけ	ポスター・チラシ 48.7% インターネット 7.7% 人から聞いて 15.4% その他 23.1%	ポスター・チラシ 36.8% インターネット 47.4% 人から聞いて 15.8% その他 13.2%	ポスター・チラシ 23.1% インターネット 38.5% 人から聞いて 48.7% その他 10.3%	ポスター・チラシ 54.2% インターネット 15.3% 人から聞いて 25.0% その他 12.5%
内容	<u>役に立つもの</u> そう思う 66.7% まあそう思う 33.3% あまりそう思わない 0% そう思わない 0%	<u>役に立つもの</u> そう思う 83.3% まあそう思う 16.7% あまりそう思わない 0% そう思わない 0%	<u>得ることがあった</u> そう思う 79.5% まあそう思う 5.1% あまりそう思わない 0% そう思わない 0%	<u>得ることがあった</u> そう思う 63.9% まあそう思う 16.7% あまりそう思わない/ そう思わない 0% 無回答 19.4%



図1 第13回「健康をつくる看護とスポーツ」
静岡市会場 静岡病院看護部の協力(フライトナース鈴木氏)



図1 第13回「健康をつくる看護とスポーツ」
スポーツ健康科学部と合同(川田助教)

開講座を知ったきっかけとして、他の回と比べインターネットの割合が一番多かった。講演内容は全員が役に立つものであったと回答があった。参加者の感想からは、「今回の公開講座を聞くことで学校選び、学びについて聞くことができましたと思います」「スポーツ心理学と看護の緊急時対応と重なる部分があり2つの学部の講演が良かった」、「静岡で順天堂大学が公開講座を開いてくれ大変勉強になった。次年度も開催してほしい」などの反応があった。また、スポーツ健康科学部の相談コーナーに高校生が立ち寄り、熱心に相談をしている姿が見受けられた。

3) 第14回公開講座「現役パラアスリートが語る パラスポーツの魅力」

広報委員会と共催し、オープンキャンパスにて公開講座を開催した。高校生・保護者を対象にすることはもちろん、地域の人々に学内開放日に見学し本学部を認識してもらうことを目的に実施した。講演はスポーツ健康科学研究科博士前期課程2年(パラリンピック日本代表)の三澤拓氏による上記のテーマであった。周知方法は、学部パンフレットにチラシを同封発送、高校訪問時にチラシ配布、8月オープンキャンパス時にチラシ配布、ホームページに掲載等実施した。

参加者は50歳代以下が94.5%であり、職業では高校生・大学生が56.4%と多かった。オープンキャンパスのスタッフで時間の空いた学生も聴講でき、学生の学習機会にもなった。参加者の地域は、静岡県東部地域が多いが県外の参加者もあった。参加者は、得ることがあったと回答していた。参加者からは「何事も前向きに挑戦する生き方に感動しました。『できるかできないかではなく、やるかやらないか』という言葉は今後大切に生きていきたいと思います」「すてきなお話でした。スポーツと学業は一緒ですよ!」「子育て中なので母親の言葉がどれだけ大切か改めて感じた」等の感想があった。

4) 第17回公開講座「わたしたちの未来を考えると ともに生きる生き方」

学生部委員会と合同開催し、順咲祭(大学祭)にて公開講座を開催した。今回も14回公開講座と同様に地域の人々に学内開放日に見学し本学部を認識してもらうことを目的に実施した。講演は医学部病理・腫瘍学講座の樋野興夫教授による上記テーマであった。周知方法は、学部パンフレットにチラシを同封発送、高校訪問時にチラシを配布、8・9月オープンキャンパス時にチラシ配布、広報みしま・ホームページに掲載等実施した。

参加者は50代が31.9%と多く、次いで10・20代が20.8%であり、40・60・70代は各年代とも10%代で様々な年代の参加があった。参加者の地域は三島市が41.7%と多いが、県外も含め様々な地域から参加が見られた。公開講座を知ったきっかけとしてポスター・チラシが54.2%であり、他の会と比べ割合が高かった。参加者は講演内容が得ることがあったと回答した者は80.6%であった。参加者は「がんという重い病気を、これ程、安心感と希望を与えてくれる講座を聞きましたことは、大変貴重でした」「ユーモアをまじえて、わかりやすく話していただき、とても良かった」「学祭とかねているのがよかったです」等の感想があった。また、学生部より順咲祭への来場者数が昨年度より増加したとの報告があった。

III. 考 察

大学では、「教育」「研究」「社会貢献」という3つの柱がある。公開講座は「社会貢献」という機能の役割を担っており、大学の持っている専門知識を広く地域・社会に発信している。また、公開講座は大学経営に対するプラス効果も期待されており、「広報効果」「ネットワーク構築効果」「学生・教員に対する教育効果」などがある²⁾と述べられている。そこで、今年度新たな取り組みについて「広報効果」「学生・教員に対する教育効果」を中心に考察する。

公開講座を実施することで、参加者は「大学の認知」がされ、受講により「公開講座に満足する」ことにより「大学のイメージアップ」につながり、学生獲得につながる可能性がある²⁾ことが明らかになっている。第13回公開講座を静岡市で開催したのは、広報委員会から中部地域の受験生増加の課題提供から新たに取り組んだことであり、静岡県中部地域の認知度を高めるために効果があったと考える。昨年までは公開講座への高校生の参加は少なかったため、第14回公開講座の高校生へ対象を絞り高校生の参加率が高いことは

認知度の向上につながったのではないかと考える。このように本学部の状況にあった公開講座を企画するためには、広報委員会、学生部委員会等と公開講座企画委員会が連携することは必須であると考えられる。

満足感を与える公開講座は、「受講内容の質が高く、充実している」「先生が熱心に・丁寧に教えてくれる」「職員・スタッフの対応がいい」²⁾という結果であった。教職員の対応と質の高い講座内容の提供が重要であるといえる。4回の公開講座の内容は役に立った、得ることがあったと非常に好評であり、受講内容が充実していたのではないかと考える。今後もターゲット層に合わせた内容を検討したい。講師の選定では、親しみのわくことが大学のイメージアップにつながると考えられ、そのため本学部の教員や非常勤講師等の協力を得ていきたいと考える。また、第13回や第17回公開講座のように、大学のイメージに即した講師の選定も効果的であり、医学部やスポーツ健康科学部、医療看護学部、国際教養学部などとの共催も検討していく必要があると考える。

広報効果を高めるには、まずは多くの受講生を集めることが必要である。第13回、14回公開講座の参加者は50名程度であり、周知方法を検討する必要がある。公開講座を知ったきっかけは、10代20代の参加が多かった第13回の場合はインターネットが多く、様々な年代層が参加した第17回ではポスター・チラシや市町広報が多かったことから、公開講座の対象者のターゲット層によって周知方法を考えていきたい。現在、本学部のSNS(Facebook, Twitter, Google+等)の環境が整っていないことから整備をしていく必要がある。高齢者層は紙媒体で情報を得ることが多いことが予測されるため、チラシ配置場所を再検討していく。また、公開講座の年間予定を早期に周知するため、年間予定のチラシまたは年間の前半・後半のチラシを作成していく予定である。

今まで公開講座を本学部の学生へPRする機会を設

けていなかった。第14回公開講座の三澤氏の講演は、参加者の感想にあるようにスポーツも学業も通じるところがあり、前向きに取り組むことなど学ぶことかできた講演であった。公開講座の学生への教育効果は非常に大きいと思われるため、本学部学生への周知を強化していく予定である。また、聴講したくても様々な事情で参加できない学生もいることから、講師の了解を得て学内に限り聴講できるビデオ作製を検討していきたい。

IV. 終わりに

今年度、公開講座の新たな取り組みとして様々な方法に取り組んできた。取り組みの中から、公開講座の意義や役割、期待されること等を公開講座企画委員会で確認することができ、今後の取り組みも明らかになった。地域住民や高校生に広く認知できる周知方法の拡大、本学部学生への公開講座の周知の強化等取り組み、「広報効果」「学生・教員に対する教育効果」の強化を図っていきたい。

最後になりましたが、各公開講座の講師を務めていただきました、石塚淳子先生、福井みどり先生、鈴木めぐみ先生、川田裕次郎先生、三澤拓先生、樋野興夫先生に感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 渡邊和信, 岩清水伴美, 島田千恵子, 他: 第10回順天堂大学保健看護学部公開講座「知っておきたい目の病気」～順天堂大学医学部附属静岡病院との共催の試み～, 順天堂保健看護研究第6巻, 59-66, 2018.
- 2) 株式会社リベルタス・コンサルティング, 文部科学省: 公開講座の実施が大学経営に及ぼす効果に関する調査研究 調査報告書, 2011.